

# 増林在住の『あの人、この人』と題し



れ・八十二歳』をお訪ねしました。

十八号では、東越谷七丁目の紙谷ひさ子さんをご紹介いたしました。今回は、花田七丁目在住の『榎本和子さん（大正十一年一月二十一日生

## ある日曜日の朝

榎本さんのお宅は、花田苑の近くのかな住宅地にありました。インタールホンを押すと玄関から鮮やかなチェック柄のブラウスを着た榎本和子さんが、出迎えて下さいました。

お話を伺おうとすると、榎本さん自ら『私は、自分の事を“ハッスルバアさん”と言っているのですよ』と…。

そこで自ら“ハッスルバア”さんと称する訳をたずねると、榎本さんは増林生まれで、今は亡きご主人と農業で生計を立てておりました。バイクにリヤカーを付けて、野菜や物を運ぶ時代から、自動車の時代へ

と変わりつつあった四十四歳の時、当時ご主人も持っていなかった車の運転免許を取出し、登戸方面に“引き売り”に行つたそうです。

「こんにちは！新鮮なお野菜はいかがですかー。」と言つて売りあるくのよ！と、可愛い表情で話される。ご主人と二人で作つた野菜は、アツという間に売切れてしまつたそうです。また、市役所前の月二回の朝市には、十六年もの永い間出店をされ、永年の功績に農業団体から表彰をされた嬉しい思い出もあるそうです。

今は、忙しい農業の合間に少しずつ習い始めた詩吟で数十名のお弟子さんを持つ立派な先生として活躍中です。体調不良で辛い時もあつたそうですが、お弟子さんに励まされて、昨年三十周年をお祝いすることができ、

『教え子の皆さんを立派に育てあげることが私の役目よ！』と今後の抱負を話されました。

他の趣味として、大正琴・謡曲・仕舞をやつておられ、特に大正琴は、先生に指導を受ける日以外にも自宅で大勢のお友達と

週三回の練習を行って、いるそうです。しかし、永い間農業をされた後遺症か体が思うようにならない時もあるそうですが、お稽古のある日には元気が出てくるとか。『好きだから出来るのでしょね』。『お友達と逢えるから頑張れるのでしょね』。『と瞳をキラキラさせて語ってくれました。』

『その時、その歳にできる事との出逢いがあり、私はとても運が良いのよ！数年前より始めた謡曲や仕舞は、ゆっくりした曲で、特に仕舞は自分の今の体調に合っていてとても気に入っている。楽しみですよ！』と、八十二歳とは思えないバイタリテイにあふれ、やる気満々。

◎永い人生を通して自分が苦勞した事で他人の痛みもわかってあげられる。

◎悪い時があつたからこそ良いことに感謝ができる。

◎人生あきらめないで頑張ることが大切。自称『ハッスルバアさん』

そして詩吟の先生、榎本和子さんでした。インタビュを終えて思うに：

『ハッスルバアさん』と言うより、お名前のお如くとても和やかで優しいお姉さんのような方でした。

今日は榎本さんに逢えてとてもラッキーな一日で、足取りも軽く帰りました。